事業実施報告書

法人名	特定非営利活動法人ウィズ・ザ・スモール
活動名	難民申請者等、マイノリティの方のくらしの支援と理解促進事業
助成事業の種類	SDGs推進活動助成
	パートナーシップ分野

事業の目的

年を追うごとに排外的な風潮が強まり、難民申請者をはじめとして、外国ルーツの方やマイノリティと呼ばれる方々への偏見や差別感情が広がっている。
埼玉県南部を中心に、特定の民族に対し、社会の分断をあおるようなヘイトが横行し、地域社会は寛容さを失いつつある。私たちが活動している小川町でも
外国ルーツの方を見かけることが増えているが、地域住民と交流する機会は少なく、お互いに理解が進んでいるとは言えない。
NPO法人設立時より、日本語教室や上映会などを通じて、地域住民と外国ルーツの方、特に難民申請者などのマイノリティと呼ばれる方々が、たがいに
理解しあえる場をつくってきた強みを活かして、多文化カフェや料理教室など、食を通してふれあえる事業を行うことで、たがいの文化を知り、理解しあえる
機会を提供することを目的とした。また、災害時に情報が届きにくい外国ルーツの方にも、適切に情報が届けられ、避難行動に結びつくことを目的として、
やさしい日本語をもちいた防災情報の発信に役立つ資料づくりをめざしている。

事業で取り組んだ地域や社会の課題

事業1：日本語教室　自治体が主催する日本語教室は、概ね隔週で行われているため、日本語力の向上の成果が上がりにくく、子どもたちの学習成果も
あがりにくい。そのため、NPOとして隔週開催し、毎週開催とすることで、日本語力の向上につなげている。
事業2：外国ルーツの方の防災対応力向上　気候変動などにより、災害の多発化、激甚化が進むことが予想されている。外国ルーツの方を含め、障がい
のある方などが必要な情報を適切に受け取れることが課題である。
事業3：多文化カフェ　難民申請中の方など、外国ルーツの方と地域住民とが直接ふれあう機会が少ないため、理解しあえる関係が築きにくい。
事業4：多文化料理教室　小川町は他国の文化を深く知る機会がまだ少ないため、外国ルーツの方と直接ふれあえる機会を増やすことが必要である。
事業5：マイノリティに関する上映会　マイノリティの方が抱えている困難や苦痛を、より多くの方に知ってもらうことが必要である。

取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果

事業1：日本語教室16回（6/24,7/15・29,8/12・26,9/9・23,10/14・28,11/11,12/9・23,1/9・16
・30,2/13）実施。外国人受講者5～8名（小学生1名、中学生2名含む）、ボランティア講師4～5名参加。個人に合わせた指導を実施。
事業2:外国ルーツの方の防災対応力向上　町役場から、過去の防災無線、防災メールの資料を受領。日本語教室ボランティア講師3名でやさしい日本語への変換中。
事業3：多文化カフェ　UECHUで30回（6/21・28・29,7/5・6・13・26,8/10・30・31,9/6・7・14,10/4・11
・26,11/2・9・16・30,12/6・14・21・28,1/11・25・31,2/1・14・15）、あまふく食堂で10回（7/6・27,8/17・24,9/27,
10/5・25,12/20,1/17,2/22）実施。 事業4:多文化料理教室　11月22日（日）にあまふく食堂でスリランカ料理教室を開催。6人参加。
事業5:マイノリティに関する上映会　12月14日（日）にUECHUで「夏休みの記録」上映会と監督の講演を開催。30人参加。

事業実施により達成した成果の具体的な内容

事業1：日本語教室　計16回実施。外国人受講者のうち、7月に2名が日本語能力検定受験。うち1名がN4級に合格。来年度の検定に3名が受験予定。
1月から町民会館工事のため、他施設で開催。教室に参加できない受講者もいるため、週1回、オンラインでの日本語会話の場を開始し継続中。
事業2:外国ルーツの方の防災対応力向上　過去の防災無線、防災メールの資料を日本語教室の空いた時間または前後にボランティア講師間でやさしい日本語への変換中。
事業3：多文化カフェ　クルドおよびスリランカ、コンゴの難民申請者の方に埼玉県内から来町いただき、毎月2回程度ずつ1年以上継続して多文化カフェを開催中。
地域住民の方など、来客者ともコミュニケーションを取っていただきながら、ヘイトなどのトラブルもなく継続できている。
事業4:多文化料理教室　スリランカ出身の難民申請者の方を講師に招き、地域の有機野菜を使ったスリランカ料理教室を立教大学の学生と共同で開催した。
事業5:マイノリティに関する上映会　ドキュメンタリー映画「夏休みの記録」の上映会と監督の後援会を開催し、多文化共生について考える機会を提供することができた。

費用面での工夫
日本語教室は、会場となる町民会館の改修工事のため、年度途中から、やや離れた場所への移動を強いられた。そのため、通えなくなる外国人受講者の方が
出ることが予想されたため、無料で開催できるオンラインでの日本語教室を開始した。
多文化カフェ、多文化料理教室では、食材の一部を法人役員がつくっている規格外野菜を使うことで、費用の削減に努めた。
また、多文化カフェや多文化料理教室に、NPOが支援している親を頼れない若者や難民申請者の方にボランティアとして参加してもらうことで、社会参加
の機会と経済的支援を提供することができた。

地域社会への還元
日本語教室では、無償で継続的に日本語を習得できる機会を提供している。社会人だけでなく、小中学生には学年やレベルに合わせた学習支援も行っている。
職場や学校、日常生活において、外国ルーツの方の日本語理解が進むことは、地域に暮らす住民にとっても、意思疎通が容易になり、たがいの理解が進むこと
につながる。外国ルーツの方の防災対応力が向上することで、災害弱者とみられている外国ルーツの方が、支援される側から支援する側になり、地域全体の
防災力向上につながる。多文化カフェでは、クルド人難民の家族に1年半以上、料理を提供してもらっているが、トラブルやヘイトなどはなく、地域に受け入れ
られており、寛容な地域社会づくりに貢献している。マイノリティに関する上映会は、法人設立以来、4年間継続しており、排外主義が強まるなかでも、寛容な
地域社会づくりに微力ながら貢献していると考えている。

今後どのように事業を継続し発展させるか
事業1:日本語教室　毎週の開催を継続するとともに、1月から始めたオンラインでの日本語教室を充実させ、通うことが難しい方も継続して学習できる
環境を整える。
事業2：外国ルーツの方の防災対応力向上　AIやアプリなども利用して効率的に進める。役員が防災士の資格を取得したので、活用を検討する。
事業3：多文化カフェ　規格外野菜などの活用で、支出をできるだけ抑えて継続する。料理だけでなく、多文化雑貨の販売やイベントとの共催を検討する。
事業4；多文化料理教室　今年度のように、大学生や他の団体などとの共同開催により、参加者の裾野を広げて継続をめざす、
事業5：マイノリティに関する上映会　高校や大学などと協力して開催することで、若い世代の参加を促進する。年2回程度の開催を目指す。

事業収支計算書

法人名　特定非営利活動法人ウィズ・ザ・スモール

1 収入の部

（単位：円）

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C＝B－A	備考
助成金	500,000	500,000	0	
自己資金	27,700	18,428	△ 9,272	
活動実施による収入等	200,000	48,000	△ 152,000	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	727,700	566,428	△ 161,272	

2 支出の部

（単位：円）

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C＝B－A	備考
会場費	107,500	126,150	18,650	
通信運搬費	2,000	0	△ 2,000	
旅費交通費	133,200	163,380	30,180	
消耗品費	55,000	71,898	16,898	
備品費		0	0	
委託費		0	0	
謝金	100,000	60,000	△ 40,000	
人件費	330,000	145,000	△ 185,000	
その他		0	0	
支出の部 合計	727,700	566,428	△ 161,272	